

HOMAS

日本語版

ニューズレター

Hokkaido/Massachusetts Society

北海道・マサチューセッツ協会 会報

No.43

平成16年(2004年)12月10日発行
北海道・マサチューセッツ協会
会長 森本 正夫

発行所 〒060-0003
札幌市中央区北3条西7丁目
道庁別館12階
TEL011-231-3392 FAX 011-231-3666
発行人 中垣 正史
E-mail:homas@siren.ocn.ne.jp

北海道開拓の基礎を築いた指導者たち①

開拓使顧問ホーレス・ケプロンと開拓次官黒田清隆

ーホーレス・ケプロン生誕200年記念に寄せてー

北海道近代の開拓の歴史はきわめて急テンポの展開であり、しかも奇しくも、北海道とマサチューセッツ州の国際交流の出発点ともなるものでありました。

明治2年(1869)7月、明治政府の開拓使設置(初代開拓長官<明2,7,13-2,8,25>鍋島直正)にはじまります。同年8月蝦夷地を北海道と改称、第二代長官<明2,8,25-4,10,15>東久世通禧が9月函館開拓出張所設置により来道。同年10月(旧暦)銭函仮役所<明2,10-3,4>を設置、島義勇判官<明2,7,22-明3,3,2>が初代主任官となり札幌の本府建設に着手することとなります。島義勇は、開拓3神を奉じて札幌着任の後、旧暦明治2年11月12日・13日(12月13日・14日)に「コタンベツの丘」(円山、三角山?)に登り本府建設100年の大計を構想したといわれます。その後、島義勇は東久世長官との意見対立により明治3年3月2日付で東京召還。それを受けて岩村通俊判官が第二代主任官となり、京都を模した札幌建設を進めました。<明4,10-明7,10>は長官不在により、岩村通俊が長官執務。(岩村通俊は、後に明治19年(1886)初代北海道庁長官となります。)

明治3年(1870)5月、黒田清隆が開拓次官となります。彼は、明治7年(1874)8月には、第三代開拓使長官となり開拓使廃止直前<最後の開拓長官西郷従道は、明15,1,11-15,2,8の短期在任>の明治15年(1882)1月まで、本道行政の直接の責任者として活躍し、北海道の開拓の基礎を築いた最大の功労者といえます。アメリカ農務省長官のホーレス・ケプロンをはじめ、鉱山技師ベンジャミン・S・ライマン、農学校教頭ウィリアム・S・クラーク、畜産の父エドウィン・ダンなど78人の外国人(そのうちアメリカ人48人)を招いて北海道開拓に欧米の先進技術を導入したのも彼の高い識見によるものでした。

明治4年(1871)1月、開拓次官黒田清隆は、米国に渡り、グラント大統領に開拓使顧問の招聘を依頼して、同年3月アメリカ農務省長官ホーレス・ケプロン(1804-1885、当時67歳)の顧問契約を成立させました。同年7月にケプロンは秘書エルドリッジ、科学技術師アンチセル、土木技師ワーフィールドを伴って来日しました。以後、約4年間、アンチセル、ワーフィールドの開拓予備調査、その後のケプロン自身の3回にわたる道内各地の視察・調査を通してまとめられた「ケプロン報告書」(①明治4年(1871)11月、②明治6年(1873)11月、③明治8年(1875)3月)、さらに離日に際して、開拓使に提出した「報文要略」は、その後の北海道開拓の重要な指針となるものであったといわれます。いわば、北海道近代化の指導者が米国マサチューセッツ州出身のホーレス・ケプロンであったことは不思議な歴史の原点といえます。

今年2004年は、ホーレス・ケプロンの生誕200年にあたり、去る11月27日(土)道庁赤レンガ庁舎において「ホーレス・ケプロン生誕200年記念の集い」(実行委員長、有江幹男元北海道大学学長・北海道日米協会会長・北海道・マサチューセッツ協会名誉会長)が開催されました。

第2回 名古屋ボストン美術館の旅 実施記録

(2004年10月6日～8日実施)

この度、「北海道から一番近いボストン—名古屋ボストン美術館の旅—」第2回を企画実施いたしました。メインの「名古屋ボストン美術館」は、米国ボストン美術館の姉妹館として脚光を浴びているユニークな美術館です。その特別見学を主として、「常滑焼」、「有松絞」、「白川郷」、「飛騨高山」そして島崎藤村ゆかりの「馬籠」という見どころたくさんの3日間の旅となりました。8名の参加者でした。

今回、きわめて快適な3日間の研修旅行となりましたのは、ひとえにご参加の皆様のご協力の賜と感謝申し上げます。全行程をジャンボタクシーで移動することができましたので歩き疲れることもなく、またフレキシブルな時間の使い方ができてよかったと思います。最後の見学地「馬籠」で台風22号の前ぶれの雨に見舞われたのだけは予定外のことでした。ここに、今回の「研修旅行」の点描をまとめて、思い出の一頁としたいと思います。

第1日

1、午前：「名古屋ボストン美術館」の特別見学。

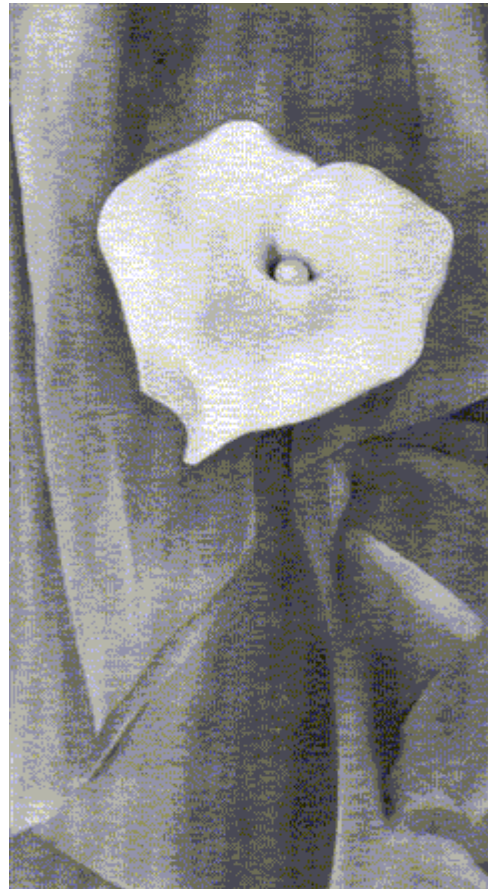
まずレクチャールームで、服部重敬広報部長の歓迎挨拶と学芸員のアメリカ近代絵画の解説を受けて、さらにビデオ鑑賞の後、展示室の絵画を観賞しました。—アメリカ近代絵画の傑作「アメリカモダニズム—オキーフとその時代」—の特別展でした。

アメリカニューイングランドの実業家ウィリアム・H・レーン(1914～1995)氏の収集絵画90点が1990年ボストン美術館に寄贈され「レーンギャラリー」と名づけられました。そのレーンコレクションのうち19作家46作品が、今回の美術展で日本初公開となりました。

これまでの重厚なヨーロッパを中心とした絵画を見なれたのとは違って、明るい斬新な色調のアメリカ近代絵画の粋を見ることができました。

色彩豊かな女流画家ジョージア・オキーフ(1887～1986)を筆頭に、抽象的手法のアーサー・G・ダヴ、スチュアート・ディヴィス、写真的手法のチャールズ・シーラー他、ナイルズ・スペンサー、ヤスオ・クニヨシなどの作家も私たちにはほとんど初めての感動的な出会いとなりました。

2、午後：朱泥の九須と登り窯で有名な「常滑」で一日陶芸家になりました。まず「ギャラリー共栄窯」マネージャー浅井景子さんに迎えられて、心のこもった郷土料理の昼食に感動しました。その後、親切な「陶芸教室」の楽しさに時間の経つのも忘れるほどの体験をしました。



「グレーの上のカラ・リリー」ジョージア・オキーフ

やきもの散歩道では、あちこちにそびえるレンガの煙突や無数の古窯跡と土管・焼酎瓶(甕)などを積み重ねた道路「土管坂」を随所に見て、いかにも「やきものの町・常滑」らしい風情を感じたことでした。また、常滑はやきものの町であると同時に、江戸時代から廻船の町でもあったそうで、伊勢湾周辺の尾張・伊勢・美濃・三河と上方、江戸を結んで、いろいろな物質を日本各地に運んだ廻船問屋の一つ、「瀧田家」の歴史的建造物の立派なお屋敷をご好意で、偶然(実は拝観時間終了後)にも拝観することができました。その昔は、このお屋敷が伊勢湾に面して廻船業を営んでいたのが、埋立により現在は内陸の高台に位置しているというのも、歴史の流れを感じさせるものでした。

夕方、ホテル「ルートイン」の西窓から、手前の暗い伊勢湾とその向うの対岸(三重県)の山脈を赤く染めて沈む夕日を望むことができました。

第2日

- 3、午前：400年におよぶ江戸の粋を伝える伝統工芸・有松絞のルーツ「有松鳴海絞会館」を見学して、見事な「絞りの文化」に感動しました。

この一帯は、東海道五十三次の宿場「有松」として、安藤広重にも描かれています。この地は慶長13年(1608)竹田庄九郎により開拓され、「有松絞り」の技法が創始されたと言われます。



私たちは、からくり人形を乗せた山車を保存する「有松山車(だし)会館」を見学し、江戸時代にタイムスリップしたような旧東海道の町並みを見ながら散策しました。江戸時代からの旧家「神半邸(かみはんてい)」での昼食もなかなかのものでした。

- 4、午後：ひたすら白川郷を目指しての長距離ドライブとなりました。刃物で有名な関・美濃和紙の美濃・郡上おどりの郡上八幡などを通過して、ひた走りに走りました。これまで、それぞれ伝統的な文化と歴史の町として「知識」の領域にしかなかったものが、次々と現実の風景として、眼前に現れてくる感動は表現しがたいものでした。

途中の山深い大自然の懷に包まれた「御母衣(みぼろ)ダム」もすばらしいものでした。そして夕方の薄暮の中に、あの白川郷の合掌造り集落を見出した時は、全く別天地へ来たような感じでした。(もうほとんど石川県に近い岐阜県大野郡白川村町)

ブルーノ・タウトの「日本美の再発見」でも紹介され、世界文化遺産に指定されている荻町合掌集落

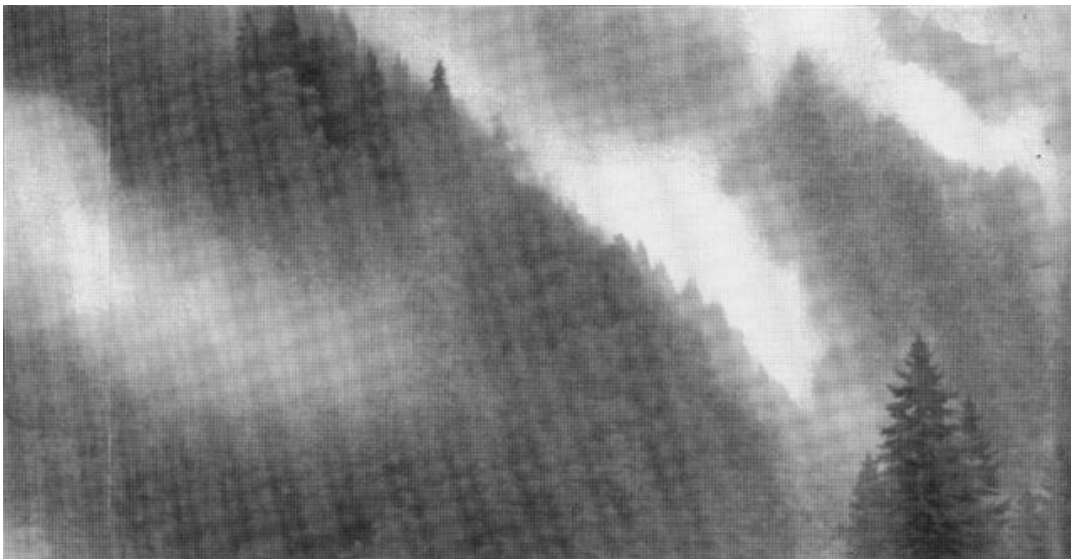
を散策、嘉永年間(1848～1853)の建築といわれる「神田家」の内部を見せていただき、3階建の造りの見事さに改めて驚きました。階上の養蚕業の様子や階下(地下)の火薬造りの秘話などを聞くことができました。

残念ながら、国重文の和田家は見学できませんでした。夜の宿は、最も創業の古い合掌造りの民宿「利兵衛」で、自然流水の清らかな水音を聞きながら、久しぶりに熟睡できたように思います。(翌日の早朝、短時間ではありましたが、再び散策を楽しむことができました。)



第3日

- 5、午前：ジャンボタクシー車窓からの朝もやにけぶる奥飛驒路の風景は、北海道にはないものでした。あの御母衣湖周辺の大杉の林立する山脈にもやがかかっている様は、まさに、日本画の巨匠東山魁夷(1908～1999、90歳の生涯)の青を基調とした奥深い風景画の世界そのものでした。これが現実の風景なのかと、私たちはその美しさに鳥肌の立つような感動を覚えました。



写真は、東山魁夷の名作「山雲」の一部]

高山は、江戸時代の町並みがそのまま息づいているような伝統工芸の町でしたが、観光客が雑踏を成しているのには驚きました。昔の天領高山の代官所跡「高山陣屋」前の朝市と短時間の高山市内散策はいかに旅の情緒をかきたてるものでした。

中津川市郊外のドライブイン「槌馬屋」で昼食となり、飛騨そばと五平餅セットをいただきました。偶然にも、ここの主人が、藤村の初恋の「おゆうさん」の縁つづきの家柄だそうで「おゆうさん」の写真の名刺がわりにもらったりしました。

6. 午後：あやしい雲行きが、「馬籠」到着のころには、かなり強い雨降りになってしまいました。宿場町「馬籠」が急な坂の町であることは、やはり実際に来て見ないと実感できないと思いました。残念ながら、「木曽路はすべて山の中である」（「夜明け前」）と書かれた木曽路最南の宿場町「馬籠」は、どしゃ降りの雨の中の散策となり、遠くに恵那山を望むことはできませんでした。しかし、木曽馬籠脇本陣資料館や「馬籠宿」の本陣と問屋・庄屋を兼ねた家だった島崎家（現在の「藤村記念館」）も見学することができました。さらに、藤村の初恋の人「おゆうさん」の実家「大黒屋」は、現在、軽食・喫茶店となっており、そこで、みんなでおいしいコーヒーとあんみつも食してきました。

＊

今回の旅もいよいよ終りに近づき、大型台風 22 号の前ぶれの強い雨の中を、名古屋空港へと急ぎましたが、空港のすぐ近くである有名なイチローの実家と記念館を垣間見ることができました。

この度の「北海道から一番近いボストンー名古屋ボストン美術館の旅」は、「常滑焼・有松絞」（愛知県）から「白川郷・高山」（岐阜県）そして「馬籠」（長野県）まで足をのばしての、きわめて欲張りな濃厚な 2 泊 3 日のこだわりの旅でした。

来年は、中部国際空港の開港、そして 2005 年愛知万博「愛・地球博」があります。はたして、「第 3 回名古屋ボストン美術館の旅」の企画が可能なものかどうか検討中です。

平成 16 年度第 2 回 国際交流ランチセミナー 記録（抄）

テーマ 「新しい国際交流を求めて～異文化理解のふれあい～」

日 時 平成 16 年 11 月 6 日（土） 11:00～14:00

場 所 KKR ホテル札幌（札幌市中央区北 4 条西 5 丁目）
2F レストラン「マイヨール」

ゲスト：

マシュー・シザー	（UMASS アマースト校）	（北大留学生）	（M）
ニコラス・ライカー	（UMASS アマースト校）	（北大留学生）	（M）
ダニエル・ルイス	（米国ポートランド市）	（北大留学生）	（M）
洪恩敬（ホンウンキョン）	（韓国）	（北大留学生）	（F）
金泰訓（チョンテフン）	（韓国）	（北大留学生）	（M）
宋昭憲（ソンソホン）	（韓国）	（北大留学生）	（F）
チョイジュンヒイ	（韓国）	（北大留学生）	（M）
ジャスティン・ナディア	（米国ポートランド市）	（石狩教育局 AET）	（M）
ファウスト・ラファエル・ゴンザレス	（ドミニカ）	（JICA 研修生）	（M）
タリー・カームガン	（タイ）	（JICA 研修生）	（F）
アンジェリン・マヌエル・キューネス	（フィリピン）	（JICA 研修生）	（M）

概要： この国際交流ランチセミナーは、マサチューセッツ州とのつながりに基

本理念を置き、アメリカからのゲストや、広く多国籍の北海道在住外国人をゲストとしてお招きして、国際交流や異文化理解の問題を論じていただき、会員同志の意見交換・交流の場にもなることを目指しています。参加者は合計 45 名でした。

今回はマサチューセッツ州立大学からの北大留学生をはじめ、石狩教育局の AET・JICA 札幌国際センターの研修生など 11 名のゲストをお招きしました。各テーブル(8 名)毎に 2~3 名のゲストを囲んで、ランチを食べながら、異文化交流の話に花が咲き、すばらしい国際交流の時間を共有することができました。

ここには、そのすべてをご紹介できませんので、ゲストのショートスピーチのみをご紹介します。

ファウスト・ラファエル・ゴンザレス (ドミニカ共和国) JICA 研修生 (男性)

(ドミニカ共和国 環境天然資源省 環境技術官)

私の名前はファウストです。ドミニカ共和国から来ました。現在 JICA のプログラムで環境・天然資源省に関する研修を受けています。ドミニカでは政府の環境資源省で仕事をしております。日本はアジアの中で初めての訪問国ということもあり、札幌に来て以来、毎日とても楽しく過ごしています。

英語が自分の母国語ではないのですが言葉が出てきませんが、日本人はとても親切・丁寧な方が多く、お互いに尊敬し合い、とても礼儀正しいと思います。

ドミニカの人口は北海道の人口の 2 倍くらいです。北海道に来て、生まれて初めて雪を見る機会(10 月 27 日朝)がありました。ご存知かと思いますが、私は南国から来ていますので全く雪を見たことはありませんでしたので大変驚きました。

洪恩敬(ホンウンキョン) (大韓民国 ^{テグ} 大邱市出身) 北大留学生 (女性)

初めまして。1 ヶ月前に韓国(大邱市)から来たホンウンキョンと申します。日本語はまだ下先週、藻岩山に初めて登りましたが、木の葉が赤や黄色でとてもきれいでした。

日本の印象は、日本人がとても親切だということと、建物がとてもきれいだということです。わたしの国は、日本と時差も無く生活文化は似ていることがたくさんありますから、あまり支障はありません。

マシュー・シザー (米国 UMASS アマースト校出身) 北大留学生 (男性)

こんにちは。私は、生まれはニューヨークですが、マサチューセッツ州立大学に通っています。マシュー・シザーと申します。現在、日本語を勉強しています。

日本に来たのは、これが初めてではないので、今回はあまり驚いたことはありませんが、残念なのは、七面鳥があれば良かったのに・・・と思っていることです。私には、七面鳥の無い「thanks giving」(11 月 25 日)は考えられないので、日本式にしようかどうか、とても悩んでいます。(以上、英語スピーチ)

私は、実は 6 年くらい日本語を勉強しています。マサチューセッツ州立大学は元々クラーク博士がその学校から札幌に来て、北大と札幌農学校特別な関係があるという事でとても興味深いです。

(以上日本語スピーチ)

ジャスティン・ナディア (米国 ポートランド市出身) 石狩教育局 AET (男性)

私は、ナディア・ジャスティンです。札幌と姉妹都市のオレゴン州のポートランド市から来ました。今回は JET プログラムの AET で日本へ来る事ができてとても幸せです。アジアのほかの都市には行ったことがありますが、日本に来たのはこれが初めてです。私は札幌が大好きです。

JET プログラムの事前の研修を受けていました時に、日本の事を良く知る人たちから、日本人のマナーの良さ(エチケット)について大変強く教えられてきました。そこで驚いたことは、以前自分の中でのイメージでは、日本人は形式的な人が多いと思っていましたが、想像していたよりも実際はとても暖かい人たちがばかりだと思います。また、今、私のスピーチの日本語の翻訳(通訳)がとても長いことにも驚いて

います。(笑)

現在、札幌では、特殊学級の授業を担当しており、特別な経験をさせていただき、大変うれしく思っております。札幌にいる間に、日本の「茶道」のお茶席などにもぜひ参加したいと考えています。本日は、このランチセミナーにお招きいただきありがとうございました。

宋昭憲(ソンソホン) (大韓民国) 北大留学生 (女性)

私は韓国から来ましたソンソホンと申します。今日は、お招きいただきましてありがとうございました。

当初日本に来る予定ではなかったのですが、偶然の機会に恵まれて、日本に来ることが出来、大変うれしく思っております。日本人はとても親切だと思います。札幌にいる間にたくさんの事を学びたいと思っています。よく「文化的な事では韓国と日本は同じですか。」と質問を受るので、そのような事をもっと勉強していきたいと思っています。どうもありがとうございました。

チョイジュンヒイ (大韓民国 ソウル市) 北大留学生 (男性)

私は、韓国のソウルから来ましたチョイジュンヒイです。今回で6回目の来日となりますが、北海道は今回が初めてです。北海道に関しての感想は、北大の日本語教師の方が教えて下さったことですが、札幌には極端な貧富の差が無いということで、自分にとっても、とても心地良く生活できる環境であると思います。札幌で生活している人はみんなとても幸せそうな顔をしていると思うので、生活のレベルが良いのではないかと思います。北海道は素晴らしいところです。理想郷(ユートピア)に近いところだと思います。北海道の人たちがうらやましいです。今日は、どうもありがとうございました。

ダニエル・ルイス (米国 ポートランド市出身) 北大留学生 (男性)

私は、オレゴン州のポートランド市から来ましたダニエル・ルイスです。私は、2年前大阪府枚方市の関西外国語大学に通っていました。日本へ来て、いつも思う事は、オレゴン州にくらべると、とても小さく狭いという事です。また、ゲストの皆さんが言うように、私も日本人はみんなとても親切だと思います。

もちろん、私は日本人が大好きですが、私の姉も現在、奈良で英会話スクールの講師をしています。私の家族は国際派といっても良いでしょう。日本とアメリカには非常に大きな違いがたくさんありますけれども、その違いを楽しめる自分を創っていきたくと思っています。これまで、22年間、アメリカで過ごしましたが、これからは外国での経験を大事にして生活していきたいと思っています。(オペラを披露)(拍手)

金泰訓(チョンテフン) (大韓民国) 北大留学生 (男性)

私は韓国から来ましたチョンテフンです。日本語の勉強に来ています。韓国語と日本語は文法的にはとても似ていますが、実際勉強してみると、とても難しく、暗記する事が多すぎます。私は、札幌ではスキーをやりたいと考えています。どうぞよろしくお願いします。

タァリー・カームガン (タイ王国) JICA 研修生 (女性)

(タイ王国 環境研究所 プロジェクト管理官)

私は、タイから来ましたタァリー・カームガンです。皆さんは、タイに来たことがありますか。ぜひタイに遊びに来てください。日本に来て驚いたことは、多くのものがリサイクルされているということです。日本の習慣で好きなところは、出された食事はすべて食べるということです。また、私は、温泉も好きで楽しんでおります。これは男性には言えませんが、日本の女性は素晴らしいプロポーションをしていると思いますよ。(笑・拍手) 今日はお招きいただきどうもありがとうございました。

アンジェリン・マヌエル・キエニョーネス (フィリピン共和国) JICA 研修生 (女性)

(フィリピン共和国) 科学技術省 科学研究専門官)

こんにちは。私は、JICA の研修でこちらに来ました。現在、環境問題について学んでいるのですが、日本では政府と人々が一体になって取り組んでいると感じています。北海道では設備がとても良く、先日苫小牧に行きましたが、北海道にはいくつか拠点があり、全部コンピュータで情報交換ができるようなシステムが揃っています。北海道は大変恵まれた環境にあり、日本の中では一番住みやすい地域ではないかと思っています。大変勉強になりました。今日は、楽しい交流会にご招待いただき、ありがとうございました。

ニコラス・ライカー (UMASS アマースト校出身) 北大留学生 (男性)

こんにちは。私はニコラス・ライカーです。ニューヨーク出身ですが、大学はマサチューセッツ州立大学です。現在、札幌では、寮生活をしています、日本人もたくさんいます。こちらへ来る前に、アメリカでいろいろな人からアドバイスをいただいてきましたが、日本人の多くは英語を話すことが出来るので、自分から日本語で話しかけると言われてきました。初めて、日本のコンビニエンスストアに買物に行き、カウンターでお金を払う時に、じっと日本語を話さないように黙り込んでいました。すると、大変親切に英語で対応してくださって、とても有難かったです。

北海道大学の姉妹校関係にあるマサチューセッツ州立大学アマーフト校ですが、札幌では「クラーク博士」というとほとんどの方が分かりますが、マサチューセッツ州の一般の人は昔の人という感覚を持っている人が多いことにも驚いています。

(マサチューセッツ州立大学アマーフト校には「ウィリアム・S・クラーク国際センター」があり、またキャンパスには、クラーク博士のメモリアルガーデンもあります。)

今日はおいしいお食事とこのような楽しい会にお招きいただきましてありがとうございました。



姉妹校流……七飯町とコンコード町

平成16年度七飯町中高生海外交流研修派遣

今年度が10回目の派遣となります中高生海外交流研修は、去る10月18日(月)～28日(木)の11日間の日程で中学生5名、高校生2名、大人8名の合計15名の訪問団として姉妹都市アメリカ・マサチューセッツ州・コンコードを訪問しました。

生徒たちはコンコードでのホームステイや高校への通学を通し文化の違いや習慣の違いなど様々な刺激を与えられ、大きく成長されたことと思います。

また、今回初めて町民レベルでの交流を促進するため、公募により選ばれた町民も派遣され、コンコードでは、そば打ちや茶道など日本の文化体験も披露しお互いの交流を深めてまいりました。本当にすばらしい国際交流ができたと思います。



訪問団一行（ハーバード大学構内にて）

国際交流員バートン・ベイツさん着任

この度10月29日付で、姉妹都市アメリカ・マサチューセッツ州・コンコードより「バートン・ベイツ」氏を国際交流員として迎えました。

コンコードとは1997年11月15日に姉妹都市提携の調印をした後、1998年8月にキャサリン・バンデバーさんを初代国際交流員として迎えてから、モニカ・テリー、エミリー・ファーロー、そしてバートン・ベイツさんが4代目となります。

バートン・ベイツさんは、1981年4月28日生まれの23歳で、大学在学中に北海道へ1年留学した経験があり、滞在時には経済学及び日本語を学び、また合気道も習うなど日本と日本文化に深く興味を持っています。今後、英会話講座や各種行事を通じて、七飯町の国際交流業務及び町民の国際化のため、そしてコンコードとの友好親善促進のため活躍下することを期待しています。



七飯町の歓迎会にて

次にバートンさんからのメッセージをご紹介します。

私は、学生時代に小樽商大に1年間留学しました。その後アメリカに戻りましたが「また日本に戻って、仕事がしたい、文化と言葉の勉強を続けたい」と思うようになりました。

そして七飯町で国際交流員の仕事があることを知りました。いつかは七飯とコンコードだけではなく、日本とアメリカの間のビジネスや交流がうまくいけるように助けるコーディネートをしてみたいと思っています。

七飯町では英語を教えることだけではなく、英語を話す自信を与えたいと思います。七飯町では英語を理解する人は多いのですが、みんな自分の力に自信がありません。ですから私の生徒になる人達には英語を気持ちよく話してもらうようにしたいです。

また、ビジネスについて話すことも好きですから、ビジネスの進め方や発展させるためのアドバイスのやりとりなどフリーな談話会もやってみたいと思います。もちろんアメリカ文化の色々な面も紹介したいです。さらに私にとって日本文化の中で一番魅力的なものは武道です。

西洋にも瞑想のような精神面を鍛えるものや格闘技はありますが、日本の武道のように相手がいて、段や帯などレベルを上げていくものではありません。

また、茶道や書道など日本の伝統文化も学びたいと思っています。

将来は、今やっていること、つまり人に何かを教えたり地域間・学校間・社会間などにつながり、交流を作っていくことに関っていききたいです。

姉妹校流……滝川市とスプリングフィールド市

寄稿

第14回ジュニア大使訪問団随同行記

滝川市総務部秘書課交流推進グループ

塩入正行

今年度で、第14回を迎えるジュニア大使訪問団派遣事業は、市内の中学生、高校生を本市の姉妹都市スプリングフィールド市（以下ス市）へ派遣するプログラムです。毎年、多数の応募者の中から選抜された生徒たちに、ホームステイを中心とした日程を組み、ス市工科高等学校に通学し、授業やクラブ活動、放課後をホストファミリーの生徒と共に過ごし、現地の高校生と同じ生活を体験するものであり、社団法人滝川国際交流協会と共催実施しております。

ス市はバスケットボール発祥の地として知られ、また、隣町ホリヨーク市はバレーボール発祥の地であることから、この地域からスポーツが世界に広まったと言っても過言ではないほど、スポーツが盛んな都市です。

また、バスで約2時間のところに位置する州都ボストンを訪れる機会を得ました。昔先代たちが、イギリスからここボストンに移住し、物や文化が全米に広まった経緯もあり、マサチューセッツ州がスポーツと文化の発信地であることを学ぶことができました。

このように長年にわたり、交流の礎を築いたのは、行政だけではなく、地域住民の方々の中から有志の方が橋渡し役となり、ご尽力いただいた賜物に他なりません。中でも2004年、5月外務大臣表彰を受賞されたスー・ルート氏なくしては、これまでの両市の交流を語ることはできず、今回も限られた滞在時間を最大限に生かした日程を組んで頂き、高校訪問はもちろん、市民の方とのふれあいということで、ビッグE（東部6州産業物産祭り）会場ではパレードに参加し、団員が大衆の前で手を振り、広く姉妹都市交流をアピールすることができました。このような機会を設けて頂いたのも、ひとえに、スー・ルート氏を中心とした市民の方々の温かいおもてなしに他なりません。団員にとって忘れられない思い出に残る滞

在であつたに違いありません。

我々が訪れた紅葉の季節も過ぎ、これからは雪の季節に入るス市ですが、今月には第2回滝川西高等学校生徒短期留学派遣事業が実施され、生徒2名並びに教員1名が姉妹校であるス市工科高等学校を訪問します。

今後、本市では姉妹都市交流を一層発展させていきたいと考えています。



東部6州産業物産祭会場のパレード風景



第14回ジュニア大使訪問団一行

事務局短信

森本正夫会長、秋の叙勲で「旭日重光章」を受章する

北海道・マサチューセッツ協会の森本正夫会長（北海学園理事長）は、この度永年にわたる教育振興のご功績により、秋の叙勲で栄ある「旭日重光章」を受章されました。

森本先生は、道教育委員、日本私立大学協会副会長などの公職も歴任。また、国際交流の活動としては、北海道モンゴル親善協会会長、北海道ペルー友好協会会長などとして、芸術・文化・教育等の分野で国際友好親善に大きく貢献されています。今後のますますのご活躍をご祈念申し上げます。

なお、「森本正夫先生叙勲受章祝賀会」が、去る12月7日（火）、札幌グランドホテルにおいて盛大に行なわれました。

ホームページリニューアルのお知らせ

「北海道・マサチューセッツ協会」のホームページを今年7月、リニューアル（更新）いたしました。

URL「<http://www5.ocn.ne.jp/~homas>」をご覧くださいと思います。当協会の年間行事等のご案内概要も入れてありますので、よろしくお願いいたします。

アレック・ウィルシンスキー総領事8月末離札。後任はマリー・シェーファー氏

在札幌米国総領事館、アレック・ウィルシンスキー総領事（札幌在任期間3年）は、8月末ご退任になり、シアトルのアジア太平洋経済協力会議（APEC）米国事務所の対外政策顧問に就任されました。

後任としては、ワシントンDCの国務省日本部や米国議会外交補佐官等を歴任されたマリー・シェーファー氏が、9月1日付で着任されました。シェーファー氏は、日本語堪能で、1980～'84に、札幌大学助教授として在札、小樽商大・北星大・小樽女子短大等で英語講師も兼任された経歴があり、「北海道通」の総領事として、今後のご活躍が期待されます。

新入会員紹介（2004年7月27日以降） <個人会員>

福村 匠祥 鈴木 未央 米田 悦子 本田 一子 戸澤 六津子 板垣 町子

2005年（平成17年）北海道・マサチューセッツ州姉妹提携15周年記念訪問団の派遣について

2005年9月（10月）、北海道知事、北海道議会議長を中心とする代表訪問団が、アルバータ州（姉妹提携25周年）及びマサチューセッツ州（姉妹提携15周年）を訪問して公式協議、記念式典等を行う予定です。当協会の15周年記念訪問団派遣も、やはり、ボストンの州庁舎ステートハウスで行われる記念式典に参列することになりますので、日程は、9月か10月の8日間になりそうです。日程および記念事業等はまだ確定できませんが、下記のようになるかと考えています。

（例）9月4日（日）～6日（火） 札幌発 → ボストン着（泊）

（コンコード（泊）・スプリングフィールド（泊）、アマースト、ボストン（泊））

7日（水）～9日（金） ニューヨーク（泊）→ フィラデルフィア→ ワシントンDC（泊）

10日（土）～11日（日） 帰路 → 札幌着

現在、関係方面に問い合わせ中ですが、姉妹提携15周年記念として、新都山流尺八聖琳社グループとYOSAKOIソーランチームは未定ですが、ある地域の有力チームが訪問団同行ということになりそうです。

「HOMAS」第44号（2005年3月発行予定）に、確定した「北海道・マサチューセッツ州姉妹提携15周年記念訪問団募集」のご案内を掲載いたします。もうしばらくお待ちください。